

教育 DX

デジタル型シミュレーション人形を活用した実践的薬剤師教育

取組内容

デジタル技術を活用して臨床現場をシミュレーションする教育（SIM 教育）は、模擬練習ツールを通して目的の臨床項目を学習できる極めて有用な教育手法である。その特徴は、学習者が安全にかつ繰り返し手技を学習できる点である。本学では、文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（令和3年度補正）」(A)における「実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備」に採択されたことをうけ、デジタル型シミュレーション人形を増設し、事前実務実習等で活用している。

また、令和4年度学長裁量費による教育改革推進事業として「高度な臨床能力を獲得するシミュレーション教育開発事業」を実施し、外部の専門家を招聘して教員のトレーニングや教育プログラムの開発に取り組み、外部の大学教員にもその手法を広めるとともに、臨床薬学教育の質をさらに高め、実践能力を備えた薬剤師の育成を目指している。

★教員向け講習会

- ・ https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/newstotics/2022/0201_5470.html
- ・ https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/newstotics/2022/0323_5573.html

★他大学や薬剤師への普及活動

- ・ <https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/society/pharmacist-seminar/jisshu4.htm>

★取組指標1（アウトプット）

- ・ バイタルシミュレーション教育を導入する授業の実施科目数

現状 2年次 選択科目：ゼミナール

4年次 必須科目：実務実習事前実習

5年次 選択科目：課題解決型学習（PBLT）

目標 ⇒ 4科目あるいは実務実習終了後（5年または6年次）での必須科目化

★取組指標2（アウトカム）

- ・ 学生の成績（事前実務実習の平均値）の向上

基準 GPA 3.16（2021年）

目標 ⇒ GPA 3.30

- ・ 学生の満足度（授業アンケートの満足度）の向上

基準 83.0%（2021年）

目標 ⇒ 88.0%